

アスクル、CDP「気候変動 A リスト(最高評価)」に続き 「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に選定

アスクル株式会社(本社:東京都江東区、代表取締役社長:吉岡晃、以下「アスクル」)はこのたび、国際環境非営利団体 CDP より、2021 年 12 月の「気候変動 A リスト」企業選定に続き、「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に選定されました。

アスクルは、2016 年の「2030 年 CO2 ゼロチャレンジ」の宣言以降、2030 年までに全事業所や自社グループの配送用トラックから排出される CO2 をゼロにするため、原材料調達からお客様への商品お届けまでサプライチェーン全体での CO2 削減を目指す取り組みを進めています。このたびこれらの活動が総合的に評価され、サプライヤー・エンゲージメント・リーダー企業(上位 8%にあたる 500 社超、日本企業は約 105 社)の 1 社に選定されました。



■アスクルの環境への取り組みとサプライヤー・エンゲージメント

アスクルは「仕事場とくらしと地球の明日に「うれしい」を届け続ける。」というパーパス(存在意義)のもと、持続可能な社会の実現に向け、お客様、社会、そして地球環境にとって最も効率的で環境に配慮した流通プラットフォーム(エコプラットフォーム)を構築すべく、2003 年より環境方針を策定し脱炭素社会の実現に取り組んでいます。

最近では 2021 年 12 月、「RE100」(※1)の目標達成に向け再生可能エネルギーの導入を進め、現在は本社、物流センター、子会社を含めたグループ全体における電力使用量の 57%を再生可能エネルギーに切り替えています。また「EV100」(※1)の目標達成に向け、EC 事業には欠かせない配送業務における EV 車両導入を順次進めると同時に、2022 年 1 月からは今後の EV 車両増加を支える電力マネジメントの課題にも取り組んでいます。

サプライヤー・エンゲージメントに関する取り組みとしては、2014 年 5 月期から GHG プロトコルの Scope3 基準に基づきサプライチェーンにおける CO2 排出量の算定をしています。商品の原料調達からお客様に届くまでの一連のプロセスを 15 のカテゴリに分類・体系化し、それぞれの CO2 排出量を算定。この結果をもとに、サプライチェーン全体の排出量を算定・把握しています。排出量が多い部分や削減可能性の高い部分を見える化することで、サプライヤーと協働で効率的な削減対策を実施しています。

アスクルは今後も、「エシカル e コマース」を目指す企業として日本中の仕事場とくらしと地球の課題を解決する持続可能なビジネスモデルとして持続可能な社会の実現を目指し、事業の全領域において環境負荷低減の活動に取り組んでまいります。

(※1) 「RE100」(Renewable Energy100)と「EV100」(Electric Vehicles100)双方とも、英国の非営利組織クライメイトグループ(The Climate Group)が主催するビジネスイニシアチブ

■「CDP サプライヤー・エンゲージメント評価」とは

CDP 気候変動質問書(完全版)に回答した企業を対象に、通常の気候変動スコアに加えて、サプライヤー・エンゲージメント評価(SER)に基づくスコアを付与しています。SER で最高評価を獲得した企業を、サプライヤー・エンゲージメント・リーダーとして表彰しています。今年は完全版質問書に回答した企業の上位 8%が該当しました。(グローバルでは 500 社超、日本企業は 105 社が選定)

News Release



SER は、企業が気候変動課題に対してどのように効果的にサプライヤーと協働しているかを評価するものです。CDP は、気候変動質問書の中から、ガバナンス・目標・スコープ3 排出量・バリューチェーンエンゲージメントのカテゴリーにおけるいくつかの質問において、サプライヤー・エンゲージメントの取り組みをスコアリングします。

〔参考〕アスクル株式会社 サステナビリティ環境報告（気候変動・脱炭素）

URL: <https://askul.disclosure.site/ja/themes/91#model02>

※本リリースに掲載の情報は、発表日現在の情報です。その後予告なしに変更されることがございますのでご了承ください。